

わたしたち、ぼくたちの 共同生活体験記

親のありがたみが分かる「いいたて合宿通学」



合宿通学は絶対楽しい
草野小 高野 香織
一番大変だったのは、手紙の時。それは泣くのをこらえなければいけないからです。手紙を讀んで私は、「早く家に帰りたい。みんな元気がな。おばあちゃんとおじいちゃん仲良くしてるかな」と思いました。
6日目の朝に坐禅をした時、おほうさんに「あなたの座り方上手ですね」と言われました。その後行ったあいの沢では、お兄さんたちが私達とゲームなどをして遊んでくれました。合宿通学に行っただけが絶対楽しいと思います。

「おんき」には
思っ出がっはい



白石小 佐藤 彩乃
合宿通学に参加するのは3回目ですが、今回は一番大変で、一番楽しかったです。大変だったのは、私たちが最年長で、班長をしたり、みんなから色々質問をされたことです。班長は、みんなをまとめたりしました。でも、今思えばそれがとても心に残った気がします。「やすらぎ(合宿通学)」には、楽しい思い出、つらい思い出がたくさんありました。合宿通学で体験したこと、例えばスリッパをそろえることや、皿洗いなどをこれから家でもどんどんやっていきたいです。



みんなにもらった
誕生日プレゼント

飯樋小 高橋 正弥
合宿通学では、つらいことや大変なことばかりではなく、楽しいことやうれしいこともありました。
楽しかったことは、教員さんとの交流時間で、マジックやゲーム、折り紙などをしたことです。
うれしかったことは、合宿通学に参加しているみんなに誕生日を祝ってもらったことです。みんなから寄せ書きのプレゼントをもらいました。
この合宿通学で、「親のありがたみ」が分かりました。この経験を、毎日の生活に役立てようと思います。



(白石小)



(草野小)

子どもたちが親元を離れ、仲間たちと生活する「親のありがたみがわかる合宿通学」が今年も行われ、村内3つの小学校からそれぞれ参加した子どもたちが7泊8日の共同生活を行いました。
今年の合宿通学には、草野小から25人、白石小から21人、飯樋小から24人が参加。合宿通学中は、深谷地区にある「やすらぎ」に泊まり、食事や掃除、洗濯等を全て自分たちで毎日行いながら学校に通いました。
今回、子どもたちの世話役には、草野小と白石小のリーダーを佐藤美和さん(小宮)、飯樋小のリーダーを川里夏美さん(草野)、さらに3小学校の副リーダーを、「緑のふるさと協力隊」としてこの春から村内で活動されている黒須祐貴さん(千葉県出身)がそれぞれ担当し、子どもたちの生活と思い出づくりに協力いただきました。

子どもたちのパワーに
毎日圧倒



草野・白石小リーダー
佐藤 美和
ちょうど、合宿通学中に長崎県で小6女子による事件が起こりました。その加害者が「特別な子」だったとは思いませんが、合宿通学に参加している子たちの姿を見てると複雑な気持ちだったのは確かです。こういつた集団生活をする事によって、互いを思いやる事ができるようになって欲しいです。
子どもたちのパワーに毎日圧倒され続けましたが、このパワーこそ子どもたちの「生きる力」そのものであると思います。



みんなと一緒に
成長できた合宿通学

飯樋小リーダー
川里 夏美
子ども達が良い悪いをきちんと自分で判断し、注意し合う姿を見て、私も日々前進でした。そして、人と接することを何気なく過ごしていた自分を反省させてくれました。副リーダーには、私だけでは答えが出ない部分をたくさんフォローしてもらい、私の考え方の枠が大きく広がり、見方の違いを知りました。
そしてもちろん、生活を共にした小学生のみんなには、たくさんエネルギーをもらい、私もみんなと一緒に成長できた気持ちでした。

あつという間の一週間



草野・白石・飯樋小副リーダー
黒須 祐貴
「合宿通学してみないか」と声をかけられた時、子ども達と接した事などなかった私は、少し不安もありましたが、興味本意で引き受けました。実際にやってみると、本当にどう接したらいいのか分からず、何もできなかったように思います。また、「学校によって子ども達がこうも違うのか」と、気持ちを切り替えるのに時間がかかり、あつという間に一週間が過ぎてしまいました。
この合宿通学は、多くの方達から様々な事を教わり、自分の未熟さに気付かされる体験でした。



(飯樋小)

